

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]

(令和7年7月解析分)

1 今月のトピックス

■ 梅毒の感染報告数が、ここ数年高い水準で推移しています！

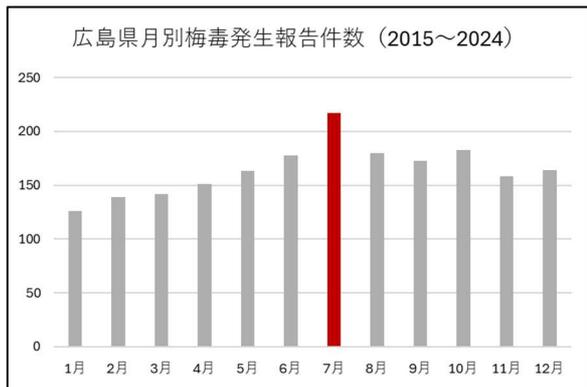
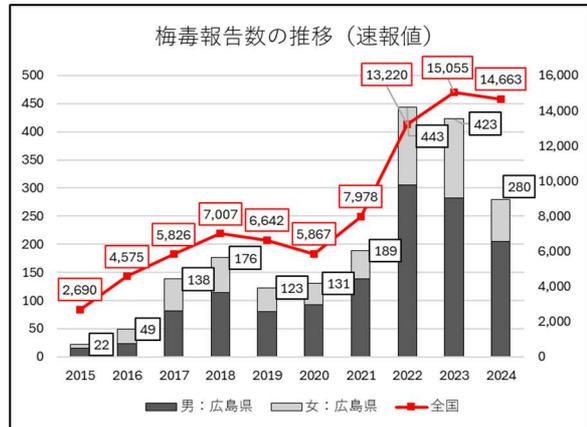
2022年から梅毒の報告者数が全国的に急増し、2024年の全国の報告者数は依然として高い水準を保持しています。

広島県においても2022年及び2023年は全国と同様に高い報告者数でした。2024年の報告数は前年度の約66%まで減少したものの、集計が始まって以来、過去3番目に多い報告数であり、注意が必要です。

2025年6月までの発生報告件数は120件(速報値)であり、2024年の同時期の報告数(133件)と比べ10%低い件数ですが、依然として高い水準で報告件数は推移しています。

広島県における過去10年間の梅毒発生報告件数を月別に整理してみると、7月が最も報告数が多く、1月が最も少ないことがわかります。梅毒は感染から3週間ほどで症状が出ることを考えると、6月～9月頃に感染する者が多いことが予測されます。

梅毒は、早期に治療すれば完治しますが、放置して進行すると脳や心臓に合併症を引き起こすだけでなく、ヒト免疫不全ウイルス(HIV)に感染しやすくなることが知られています。また、妊婦においては死産や出生児の神経や骨等に異常をきたす先天梅毒を起こす可能性のある疾患です。そのため、感染が疑われる場合には検査による早期発見・早期治療が重要です。



■ 梅毒の症状

【病原体】梅毒トレポネーマ(細菌)

【感染経路】感染部位と粘膜や皮膚の直接の接触(主に性的接触)

【予防方法】コンドームの使用(ただし、コンドームが覆わない部分の皮膚などで、感染の可能性あり)

【症状】感染からの経過時期に応じて症状が異なります(下表参照)。

感染後3週間	感染後3か月	感染後数年
<ul style="list-style-type: none"> ・感染部位(陰部、口唇部、肛門等)のしこり ・鼠径部のリンパ節腫脹 	<ul style="list-style-type: none"> ・手掌や手背、下腿、前腕、背部などを中心に、無痛性の紅斑(バラ疹)が生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚や粘膜、骨などにゴムのような腫瘍 ・心臓、血管、脳などの複数の臓器の病変

■ 県保健所(支所)における梅毒検査(要予約、無料、匿名、即日)

【検査概要】

- ・保健所で実施している検査はHIV検査と梅毒検査です。
- ・T P法(イムノクロマト法)を用いた血液検査で、採血後、約1時間程度で結果が判明します。

【検査を受ける時期】

- ・正確な判定のためには、感染の可能性のあった日から3か月を経過している必要があります。

【予約方法等】

- ・電話により予約できます。各保健所の電話番号は県ホームページをご覧ください。



2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

令和7年 6月分(令和7年6月2日～令和7年7月6日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	急性呼吸器感染症(ARI) ※2	21,952	46.31	-	↘	11	突発性発しん	67	0.23	0.29	↘
2	インフルエンザ ※3	145	0.31	0.49	↘	12	ヘルパンギーナ	170	0.59	0.16	↑
3	新型コロナウイルス感染症(covid-19) ※1	392	0.83	-	↗	13	流行性耳下腺炎	27	0.09	0.04	↗
4	RSウイルス感染症	35	0.12	1.10	↘	14	急性出血性結膜炎	1	0.01	0.01	
5	咽頭結膜熱	211	0.73	0.51	↗	15	流行性角結膜炎	106	1.12	0.46	→
6	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	862	2.98	1.26	→	16	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
7	感染性胃腸炎	1,677	5.80	4.04	↘	17	無菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
8	水痘	39	0.13	0.10	↗	18	マイコプラズマ肺炎	70	0.70	0.04	↗
9	手足口病	108	0.37	0.39	↑	19	クラミジア肺炎 ※4	0	0.00	0.00	
10	伝染性紅斑	554	1.92	0.02	↗	20	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	5	0.05	0.02	↓

※1 R5年第19週(5/8～)から五類に変更。※2 咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、医師が感染症を疑う外来症例に該当する患者数を計上(他の定点把握疾患として報告されている患者数(No.2～6及び12)を含む) ※3 鳥インフルエンザを除く ※4 オウム病を除く

(2) 定点把握(月報)五類感染症

令和7年 6月分(6月1日～6月30日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
21	性器クラミジア感染症	47	2.14	2.98	↘	25	メチリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	79	3.95	3.06	→
22	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.68	0.89	↘	26	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	0.10	0.11	
23	尖圭コンジローマ	16	0.73	0.81	↑	27	薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.05	0.01	
24	淋菌感染症	14	0.64	1.30	↘	※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり) ※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。					

急増減疾患!! (定点当たり前月比2倍以上増減)

○急増疾患 手足口病 (0.04 → 0.66)
ヘルパンギーナ (0.08 → 0.12)
尖圭コンジローマ (0.38 → 1.15)
○急減疾患 感染性胃腸炎(ロタウイルス) (0.28 → 0.05)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象20疾患、月報対象7疾患)について、県内156の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1、2、3	1～13	14、15	21～24	16～20、25～27	
定点数	37	58	19	22	20	156

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類等感染症発生状況

【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	26	結核(26)〔西部保健所(1)、西部東保健所(2)、東部保健所(5)、広島市保健所(13)、呉市保健所(3)、福山市保健所(2)〕
三類	19	腸管出血性大腸菌感染症(19)〔西部保健所(2)、広島市保健所(4)、福山市保健所(13)〕
四類	27	レジオネラ症(17)〔西部保健所(3)、西部東保健所(1)、広島市保健所(10)、呉市保健所(1)、福山市保健所(2)〕 日本紅斑熱(10)〔東部保健所(5)、呉市保健所(2)、福山市保健所(3)〕
五類	561	アメーバ赤痢(1)〔広島市保健所(1)〕 ウイルス性肝炎(1)〔呉市保健所(1)〕 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕 急性脳炎(1)〔広島市保健所(1)〕 劇症型溶血性レンサ球菌感染症(4)〔広島市保健所(3)、福山市保健所(1)〕 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)(2)〔広島市保健所(1)、呉市保健所(1)〕 侵襲性インフルエンザ菌感染症(4)〔広島市保健所(1)、呉市保健所(1)、福山市保健所(2)〕 侵襲性肺炎球菌感染症(2)〔西部東保健所(1)、広島市保健所(1)〕 梅毒(18)〔東部保健所(1)、広島市保健所(10)、呉市保健所(2)、福山市保健所(5)〕 百日咳(527)〔西部保健所(89)、西部東保健所(102)、東部保健所(65)、広島市保健所(197)、呉市保健所(29)、福山市保健所(45)〕